エジプトの子どもからみた Tokkatsu
－日本での実践と比較しながら―

○平野　修　（尚絅大学）
○小泉琢磨　（深谷市立藤沢小学校）
○土屋　愛　（熊谷市立久下小学校）

１．本発表の目的

この発表では、昨年末に参観したエジプト日本学校（EJS）での学級会を日本で行なっている学級会と比較することで見えてきたことついて、特活の実践者としての立場から述べていく。まず、日本のやり方を模倣することから始まったエジプトでの学級会が、現在、どのような形で行われているのかを紹介する。次に、日本の学級会との比較、検討から①現地化が進むエジプトの学級会と日本の学級会の違い、②エジプトの学級会から日本の実践が学ぶべき点、の２点を述べる。そして最後に、エジプトの学級会との比較で見えた日本の学級会のよさと課題について言及していくことを目的とする。

２．本発表の内容

(1) エジプトの学級会と日本の学級会との相違点

「エジプトの学級会」や「日本の学級会」のように、国でまとめられるものではないが、授業参観から見えた相違点を３点あげる。

① 子どもの発言について…日本は提案理由にのっとった発言をするよう指導されているのに対して、エジプトでは「何のために」という詳しい提案理由がない。

②合意形成の捉え方について…日本は意見を合体させたり譲ったりするのに対して、エジプトでは少数派の反対を説得したり、反対意見が出たものは決定しないようにしたりする様子が見られる。

③教師の助言について…比較的日本の方が助言の量が多く、エジプトで参観した学級会は助言の回数が少なかった。

(2) エジプトの学級会から日本の学級会が学ぶべき点

日本の学級会では、枠や型が決まっている中での話合いが多い。もちろんこのことによって話合いがスムーズに進んでいくよさもあるが、一方で与えられた中で話し合うという印象も否めない。エジプトの学級会の中では枠がない分、自由な発想で発言をし、その中で疑問や問題点を見つけて解決していく。それを支えているのは、子ども中心に進めていく教師のスタンスである。子ども中心に話合いが進み、基本的に教師はそれを見守っている。その中で話合いや実践をして子どもが得るのは「自分（たち）でできた」という達成感だろう。そうした子どもの主観を大切にしていることも、今のエジプトの学級会から学べる点である。

３．エジプトの学級会との比較から気づいた日本の学級会のよさ(◯)と課題(●)

① 学級経営と学級会の関係

◯日本の学級会では、学級目標の達成を意識した議題や提案理由が多く見られ、学級会が自治的な学級経営の役割を果たしている。

●学級目標を強く意識し、目標達成が意見の根拠となる話合いであるため、子どもの「やりたい」が狭められ、自由な発想やアイデアが出にくい話合いになっている可能性がある。

② 合意形成への捉え

◯日本では、全員が納得する決定にするために、お互いの意見（考え）のよさなどを取り入れながら創造的に合意形成を行う。

●日本では自分の意見を主張し合う話合いよりも妥協し合うような話合いが多い。このことは、グローバルな社会において通用するのか。

謝辞：本研究は、令和５年度　文部科学省 EDU-Port ニッポン調査研究の助成を受けた。